

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（平成30年度～令和4年度）
研究開発課題名	中分子アゴニスト創薬のロジカルデザイン～OX40アゴニスト開発を実施例として～
代表機関名	国立大学法人京都大学
研究開発代表者名	高折 晃史

総合評価：良い

【評価コメント】

「標的エピトープを認識する VHH を数理的に取得する技術開発」を目的に、腫瘍壊死因子受容体スーパーファミリーの一員である OX40 を標的とした、アゴニスト活性を持つ VHH 抗体を取得した点を評価する。

ただし、5 年間に渡る研究の結果、目標とした VHH アゴニスト抗体の創薬デザインに係る技術確立レベルに到達したとの評価は困難である。事後評価ヒアリング審査では、本課題で得たドメイン 1-4 に結合する抗体とドメイン 3 に結合する抗体の間で、アゴニスト活性の差異を精査することで、天然リガンドを代替する中分子の創薬技術をより強化し得ると見なされた。

「医薬品の開発過程を迅速化・効率化する創薬基盤技術の創出」という本事業の眼目を今後も意識し、汎用性や発展性に優れた創薬デザイン技術の完成に向けて研究を進展させることを望む。また、研究期間中に国際誌で 2 報の論文を発表した実績に加えて、対外発表やアウトリーチ活動、および企業への導出活動等を行い、実用化への取り組みを進めていただきたい。

以上